

意見者	カテゴリ	意見の主旨	対応・方針	修正前	ページ	修正案もしくは修正しない理由
1	A氏	IV北の住まいるタウンの取組 近年の道内の大雨や地震などの災害を踏まえ、「災害に強いまちづくり」の視点を追加したことは評価できるが、29頁「安全安心な避難経路・避難場所の確保」について、より具体的な事例の記載があった方がわかりやすい。	修正する	例) 居住エリアの安全確保、安全安心な避難経路・避難場所の確保、事前防災 など	29	(記載を修正する) 例) 居住エリアの安全確保、大規模災害を意識した避難経路の検討、高架道路の活用など多様な避難場所の確保、事前防災対策の加速化 など
2	B氏	北海道の優位性でもあり弱点でもある「首都圏から遠い」「面積が広い」「寒冷地」であることについて、優位性をさらに活かすことも重要と考えるが、弱点を解消することについて、記載が足りないと感じる。 ① 高速交通網の整備 新幹線やリニア、青函自動車道などの整備を意識した記載があっても良いのではないかと。 ② 高速通信網の整備 今後首都圏から北海道に移住を促進するためには、欠かせない。 ③ 冬期の交通確保等 一番の北海道の弱点であり要望も多い、夏期同様に移動できる交通対策や各戸の除雪、大雪による雪害対策に関する考え方	①、③について修正する	【③に関して】 例) 生活バス路線の確保、交通結節機能の充実、コミュニティバス・デマンドバスの運行、MaaSの導入、自動運転や新たなモビリティの利用環境の検討、歩行者利便増進道路制度の活用	10 34	【①に関して】 (新幹線について記載を追加する) 一方、2030年度末には、北海道新幹線の新函館北斗駅～札幌駅間の開通が予定されており、観光やビジネス等の利用が期待されています。 (その他) 青函自動車道やリニアについては、構想のご提案のため修正しない。 【③に関して】 (記載を追加する) 例) 生活バス路線の確保、交通結節機能の充実、コミュニティバス・デマンドバスの運行、MaaSの導入、自動運転や新たなモビリティの利用環境の検討、歩行者利便増進道路制度の活用、安全で円滑な冬期交通の確保 【②に関して】 (修正しない理由) 暮らしやすさの向上を実現する取組として、「ICTやAI等の未来技術を活用するため、通信環境を整備する」こととしており、ご意見と案の趣旨が同様と考えられるため。
3	C氏	35頁「健康なまちづくり」とはなにか。意味がわからないので、表記を変えてはいかかか。	修正する	人口減少・少子高齢化社会において、健康なまちづくりの視点から快適な歩行空間や自転車走行空間の確保を行い、快適な暮らしの実現を図る。	35	(記載を修正する) 人口減少・少子高齢化社会において、健康増進の視点から快適な歩行空間や自転車走行空間の確保を行い、快適な暮らしの実現を図る。
4	C氏	V北の住まいるタウンの実現に向けて 43頁にまちづくりに関する国や道の支援事業の情報提供とあるが、どのように行われているのか。支援事業のウェブサイトなどがあるのなら、アドレスなどを示すべきと考える。	修正する	「北の住まいるタウン」の実現に向けた取組を実践する際の参考として、道内外の先進的な取組事例や手法、支援事業などを、ガイドブックやウェブサイトなどで紹介していきます。	43 55	(記載を追加する) 「北の住まいるタウン」の実現に向けた取組を実践する際の参考として、道内外の先進的な取組事例や手法、支援事業などを、ガイドブック ^{※2} やウェブサイト ^{※3} などで紹介していきます。 巻末でウェブサイトのURL等を示す URL: https://kitasuma-town.com & (QRコード)

意見者	カテゴリ	意見の主旨	対応・方針	修正前	ページ	修正案もしくは修正しない理由
その他のご意見						
5	D氏	全体	修正なし	—		(修正しない理由) 素案の趣旨と同様のご意見のため
6	E氏	II北海道を取り巻く状況	修正なし	風力発電等の導入のポテンシャルの高い北海道と電力需要の大きい首都圏を結ぶ新新北本連携や新たな海底送電ケーブルの増強が進められている。	15	(修正しない理由) 今後の施策の進め方の参考とさせていただきます。
7	C氏		修正なし	—	17	(修正しない理由) 「木材の建築物への使用により、森林の整備・保全に資する」(32頁) こととしており、素案の趣旨と同様のご意見のため。
8	F氏	IV北の住まいるタウンの取組	修正なし	—	31 39	(修正しない理由) 素案の趣旨と同様のご意見のため
9	F氏		修正なし	—	32	(修正しない理由) 素案の趣旨と同様のご意見のため

意見者	カテゴリ	意見の主旨	対応・方針	修正前	ページ	修正案もしくは修正しない理由
10	市町村	II 北海道を取り巻く状況 人口密度小について、7頁に北海道の人口密度は約63人/km ² と全国で最も小さいと示されていることや、人口密度が小さいことで商業施設や医療施設の撤退、さらには公共交通利用者数の減少によるサービス水準の低下など生活利便性の低下が予測されることから、人口密度が小さいことが優位性として表現していることに疑問を感じる。	修正しない	II 北海道を取り巻く状況 1. 北海道の現状と課題 (3) 北海道の都市構造 人口密度に関する記載あり	7	(修正しない理由) 北海道の人口密度が小さいことは、北海道の現状と課題として捉えており、北海道の優位性として表現してはいたため。
11	市町村	北海道の優位性5項目の中の(1)地理的特性は、あくまで特性であって有意性といえるのか。	修正しない	II 北海道を取り巻く状況 2. 北海道の優位性 (1) 北海道の地理的特性	13	(修正しない理由) 日本の最北に位置することによる冷涼低湿な気候や海が四方を囲むことなどによる農林水産業の重要な生産基盤となっていることや、首都圏から遠距離にあることによる同時被災リスクを避けた首都圏のバックアップ機能が期待されることなどを北海道の優位性と捉えているため。
12	市町村	V 北の住まいるタウンの実現に向けて 新幹線開業に向けてまちづくりを急務に行っているなかで、活用を検討している国や道の支援事業について、本考え方や実践ガイドブックから一覧を参照できるので参考になる。	修正しない		43	(修正しない理由) 素案の趣旨と同様のご意見のため。
13	市町村	モデル市町村として紹介されている当別町や鹿追町の他にも、先駆的な取組をされている市町村はたくさんあると思うので、そのような市町村に相談できるような、関わり合える場があるとよい。	修正しない		43	(修正しない理由) 素案の趣旨と同様のご意見のため。

意見者	カテゴリ	意見の主旨	対応・方針	修正前	ページ	修正案もしくは修正しない理由
14 道議会	II 北海道を取り巻く状況	<p>都市整備などまちづくりをめぐっては人口減少や脱炭素化など多くの課題に対応する必要があるが、国が日本海溝等で発生が予想される大規模地震とその被害想定を昨年明らかにし、市町村ごとの被害想定の結果も先日道から示されたことから、被災が想定される市町村では、今後、被害の低減を図るため、都市防災の観点から居住エリアの規制や集団移転の検討など、これまでのまちづくりの考え方を大きく見直していく必要がある場合もある。</p> <p>巨大地震をはじめとする、自然災害のリスクが差し迫っているという現実を直視し、「北の住まいるタウンの基本的な考え方」の見直しにおいて、災害に強いまちづくりの視点を十分踏まえる必要があると考える。</p>	修正する			(参考) 見直しにあたっては、大規模自然災害への対応は、まちづくりにおいても喫緊の課題であるとの考えから、災害に強いまちづくりの視点を新たに加えることとし、公共施設の避難施設としての活用や安全な避難経路の確保など、より効果的な取組について、さらに検討を進め、防災の視点を加えたまちづくりセミナーの開催や先進事例の紹介などを通じて、市町村との連携を深めながら将来にわたって持続可能で誰もが安心して暮らせるまちづくりが、より一層推進されるよう取り組んでいく。
				日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震や大津波の発生により甚大な被害が生ずることも危惧されています。	9	(記載を修正する) 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による被害想定が公表(令和4年7月)され、地震や津波等により甚大な被害が生じることが危惧されています。 (記載を追加する) また、最大クラスの津波に対しては、住民等の避難を軸に土地利用、避難施設及び防止施設などを組み合わせ、とりうる手段を尽くした総合的な津波対策の確立が必要です。
				「北の住まいるタウン」の実現に向け、北海道の優位性や社会情勢の変化を踏まえ、・・・、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていきます。	27	(記載を修正する) 「北の住まいるタウン」の実現に向け、北海道の優位性や社会情勢の変化、自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、・・・、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていきます。
				例) 居住エリアの安全確保、安全安心な避難経路・避難場所の確保、事前防災 など	29	(記載を追加する) ・近年の激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、ハード・ソフトの両面で総合的な防災対策を検討する。 (記載を修正する) 例) 居住エリアの安全確保、大規模災害を意識した避難経路の検討、高架道路の活用など多様な避難場所の確保、事前防災対策の加速化 など